

高大連携と高等教育におけるVR・メタバースの活用

愛知産業大学 造形学部 建築学科 通信教育課程 玉井 香里

高大連携 対面・オンラインによるメタバースのレクチャー

活動概要

日進高等学校では、2025年度より新たに発足したSTEM部において、「cluster クリエイターズ甲子園」への応募に向けたメタバースのレクチャーを実施した。5月19日は対面、20日はオンラインで指導を行い、計17名の生徒が参加した。

1日目 メタバース体験と交流活動

VRoidで制作したアバターをclusterへアップロードし、ロビーで操作確認を実施。その後、グループごとにワールドを散策し、お気に入りの場所を撮影・紹介した。メタバースの特性を活かし、部員同士の交流促進を図った。

アバター登録の流れ

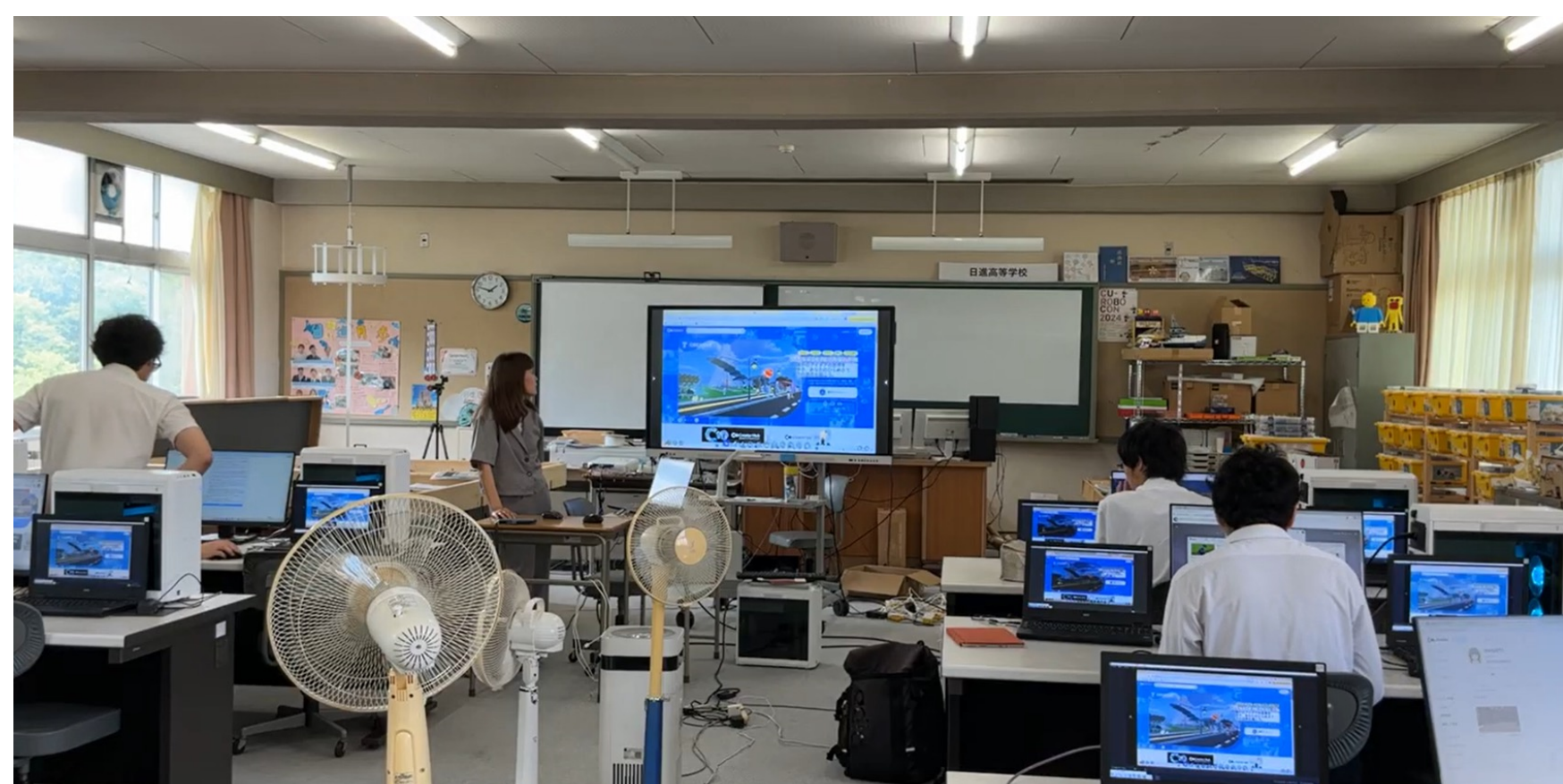
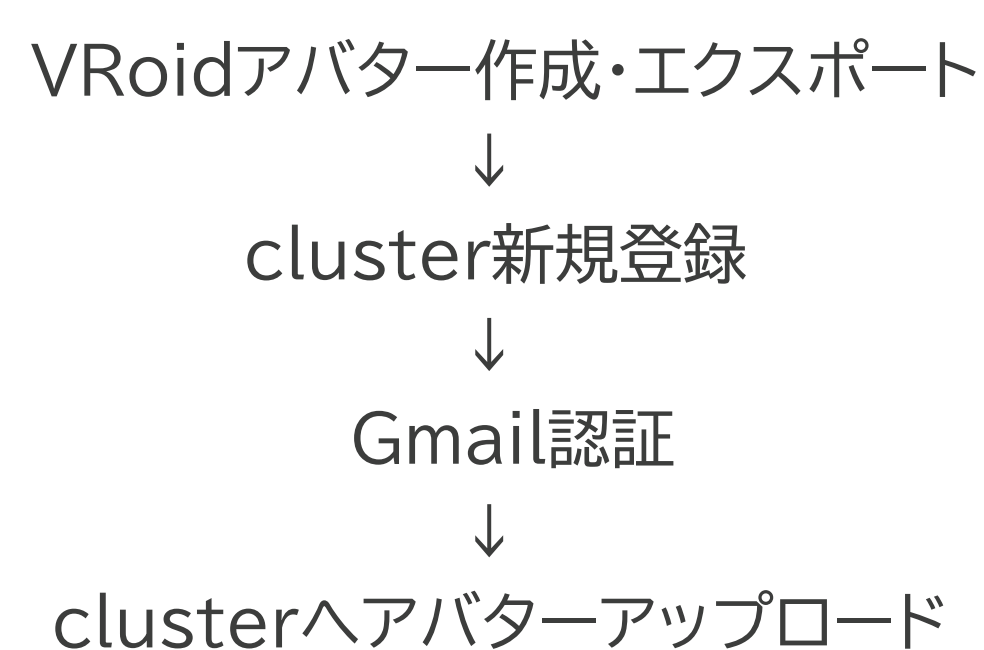


図1 授業の様子



図1 ワールド内でのお気に入りの場所

2日目 ワールドクラフト講座

オンラインでワールドクラフトの利用方法を指導。Unityを使用せず、スマートフォンやPCから直接メタバース空間を制作できる手法を学んだ。

コンテストへの挑戦と成果

テーマ「地元をアップデートしよう ～私ならこういう街にしたい！～」のもと、地域課題の解決案をメタバース空間として制作。受賞には至らなかったが、完成した成果を日進市教育長へプレゼンテーションする機会につながった。



図3 1日目 グループ毎の発表の様子

通信教育部のメタバースオープン教室

通信教育部の学生の孤立防止と居場所づくりを目的として、生徒が自由にアクセスし、学習・相談・課題制作を行うことができる学習拠点「ASU PORT Online(メタバースオープン教室)」を設置した。2025年6月から8月までの3か月間を試行期間とし、2025年10月からの本格運用を予定している。6月および7月は、まず4時間限定のメタバース自習室として運営を開始した。clusterでは限定公開の場合の利用時間に制限があるため、一般公開形式で運営している。そのため、外部利用者への対応や安全な学習環境を維持するための見守り体制の構築が今後の検討課題となっている。今後は学習相談も実施するのか、自習室機能に限定するのかについても検討を行う予定である。



図4 グループ学習スペースの様子



図5 個別相談スペースの様子